

---

# バーチャルエスケープ

ニャコウ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バーチャルエスケープ

### 【Nコード】

N8008Z

### 【作者名】

ニヤコウ

### 【あらすじ】

西暦2035年、夢小説の中だけの存在だったVRシステムが開発されてから3年目。新作のVRMMO『REAL/WORLD』が発売され一週間までに下された評判は「久しぶりの良作」。そんなゲームの世界に残されたのは1万5001の人たち。そんな中、不幸に見舞われるという体質を持っていたせいで巻き込まれたアキは現実に戻ろうと奮闘する。現実と仮想現実どちらが幸福か・・・  
・\*よくあるVRMMO物です。主人公は”最強”ではありませんのでご了承ください

## 始まりの不幸

私は、必ず彼が夢想したことを実現してみせる。仮に私が大犯罪者になろうと彼のためならやれる。

この世界をバーチャルに・・・バーチャルをリアルに塗り替えるのだ。

これまで、そのためにだけに準備を進めてきた。

「大丈夫・・・テストも巧くいったんだから」

自分に言い聞かせるような声がコンクリートの部屋に染み込む。彼が死んでしまつて何年経つだろうか、最近はゲーム作りばかりしているせいでそんなことも思い出せない。

あと一週間で、全てが変わる。ここ数年間の成果が実り、社会が私と彼の手によって激動する。

これが楽しみで何がいけないのか、きつとすぐに私は法に裁かれるだろう。だが、そのときには私はもうここにいない。ここに或るのは抜け殻のみ・・・

「さあ！最後の仕上げをしましょう」

約一週間後、集団VR殺人の容疑者に対し警察がこの部屋に踏み込み、植物状態になっていた安藤綾容疑者（31）を発見。すぐに病院に護送されたが未だに意識は戻っていない。

世の中つてのは人が思っているより案外バランスが取れている物だと、齢16の若輩者にも関わらず俺は人に説く。

これは、本や人からの受け売りなどではなく自分の経験上から出した答えだ。

たいていの人はこれを聞いて何の経験もしていないようなガキが何言っているんだ、と笑うだろう。他の意見もあげるとしたら夢見がちな少年だと笑う・などだろうか。

俺も反対の立場だったらきつと例に漏れずにそう言って一笑するのだろう。

だが、俺には残念なことに特異な体質を持っていた。16年という経験を簡単に覆すのよな残念な体質。

それは小説の主人公のような不幸を呼び込むようなものだ。小説の中では、運動神経がいいから何とかなったり、そのおかげで美少女とエンカウトするようなアレだ。しかし、それはお話の中だけで現実の俺自身は夢のような能力も力を強いだとか体格がいいという事もない、ごく一般の人間だ。ましてや美少女との出会いなんてありやしない。あるのは強面の警察官とお怖い不良、そんな俺を見て笑う馬鹿な親友だけだ。

そんな一般人が、小説のような事件に巻き込まれるなどたまったものじゃない。

頭上から、植木鉢が落ちてくることも多々ありこのおかげで何回病院にお世話になったことか、夜中コンビニに出かけたら居眠り運転のトラックに轢かれそうになるわ、歩いてたら下着泥棒に間違えられ電車では痴漢、スーパ―では万引き、公園で仲良くなった子供たちと”普通に”遊んでいたら幼児誘拐&ロリコンに間違えられて・・。警察にお世話になった回数は既に歳の数は優に超えている。

しかしだ。

それでも世の中つてのはバランスが取れているもんだ。

例えば、どこかで人が死んではまたどこかで人が産まれる。誰かが借金をしては誰かが大儲けをする。誰かが物を作ればまた誰かが壊す。需要と供給。まさに神の手が働いているかの如くバランスが整っている。何事にも両極がある、表があれば裏があるってやつだな。何もかもがバランスだ。そしてそのバランスは”幸運”にも俺にさえ適用されていた。

不幸の後には幸福が来る・・・まさにこれである。

数多くの不幸の後には一つだけそれに見合うほど大きな幸せなことが起きる。

ただそれだけ、でもこれだけでどれほど助かったことが・・・そんな気のせいかと思えるような体質のおかげで俺は・・・

その小さくて大きな恩恵の結果が今、俺の手元にあった。

目の前に鎮座しなさっているのは、2年前軍事目的で開発されたVRシステムを流用して発売されたゲーム機の最新型、通称・キューブ。そして、一週間前に発売され、なかなかの良作と歌われているVRMMO『REAL／WORLD』。

高校生三ヶ月分のお小遣いとお年玉を全てつぎ込めばやっと買えるような金額のちよつとお高めのゲーム機が我が家にある理由は簡単なこと俺が商店街のくじ引きで当てたから！

前日に、今日はよく不幸イベントが起きるなって思ってたくじ引いたら金の玉が転げ落ちてこれが手元に届いたのだ。まさにゲーム好きな俺には最高のプレゼントだった。

かれこれ3時間、取説を読み設定をしていた。

「個人データの入力に・・・ID作成もできた・・・これで完了、つとー！」

汗をかいても良いように薄着で、用も足してきたし水分も摂った。机の上にはハードと共に付いてきたソフトの『REAL／WORLD

D』という何の捻りもない題名が綺麗なイラストと共に書かれたケースが置いてある。

確か、一週間ぐらい前に発売した「よりリアルなバーチャルを」をコンセプトにしたゲームだったか・・・

版では絶賛されて売上高はとてつもないほどの額だとか、そんなことを友人が話していたのを思い出す。

バイクのフルフェイス型のような物を被り、しっかりと固定する。既に、ソフトもインストールしてあり準備も万端。

「ロゲイン」

眠りに入る瞬間のような心地よい感覚が体を包む。

その感覚に俺は自然と高揚感があふれ出る。なんせこれが初めてのバーチャルリアリティなのだから

一瞬の暗転、その後に表示されたのは一面明るい空間。

ここがキャラクター選択の空間ということだろうか、病院もそうだが周りが白すぎるとどうにも落ち着かなくなってくるな

『ようこそ桂木 かつらぎ 亜紀様リアル／ワールドの世界へ』

どこからともなく名前を呼ばれる。辺りに響く声は綺麗な女の人の声をしていた。

『今からここでは、チュートリアルとキャラクター作成をあなたにはしてもらいます』

目の前にウィンドウが表示される。

これを進めてキャラクターを作れと言うことだろう

作成中も関わらず、説明は続けられる。

これは、時間の短縮としても精神的にも良いな、チュートリアルという物は単調でイライラする物だ。

『基本、自分の分身となるアバターは現実の性しか選択できません。これは現実とバーチャルでの肉体的齟齬を少なくするためと共に様々な事故を少なくするためです。でござ承してください』

VRゲームが出た当初はゲーム内でネカマという性別詐称をする人が続出したり、何かに目覚めてそのまま現実でオカマになる人がいたと聞いたことがある。

『これはアドバイスですが、作成するアバターはなるべくでも現実近くしておくとかログアウト後、気分を害することが少なくなります』

『次に、あなたはキャラクター作成にスキャンデータを使いますか？』

スキャンデータとは、現実の身体をスキャンしそのままゲーム内で使用できるアバターにすることで、もちろんその方が安全で好まれる。

「使います」

出てきたアバターの身長などは弄らないで顔を少しだけ男らしくする。

俺だって、できれば男らしい人になりたいのだ。

『・・・ゲーム内では現実の自分の特技などが反映されるプレイが馴染みやすいと思いますので考慮してみてください。』

特技ねえ、俺の特技と言ったら不幸な体験によって鍛えられた反射神経だろうか？まあスポーツをやっている人にはさすがに劣るけど

『では、ゲーム内での初期ジョブを選択してください』

表示されるジョブは4つ

あらゆる剣を使いこなし、優れた防御力と突破力で仲間の戦陣を切って戦う猛者【ウォリアー】

魔術を使い、仲間を支援し時には圧倒的な火力で敵を殲滅する賢者

【マジシャン】

弓やナイフ・剣を使い、素早い動きで敵を翻弄する。一撃必殺のトリックスター【スカウト】

様々な道具を生成する人の叡智、技術という名の大きい力【クリエイター】

『なおこれは基本職であり、キャラクターのレベル、能力によって上位職に転職することができます。それと、ゲーム内ではいつでもどの基本職にも転職ができますので』

ふむ、合わなかったらいつでも変えることができるということか

「では、スカウトにしてくれ」

『了解しました。それではボーナスポイントを入力してください』

反射神経を一番活かせるのはこの職業だろう。それにいつでも変えられるのだ悩む必要はない。それにしてもボーナスポイントか・・・ポイント割り振れるステータスは筋力、防御、敏捷、器用さ、運この時、俺は心揺れた。動揺といってもいい、ステータスの最後の



一文字。

そう、”運”だ。

現実の俺は運に振り回されていた。それもそうだ不幸や幸福は運に作用されることが多いと言われているから。

運は俺から切っても切り離せない物だ。でも現実のそれがゲームの中でも関わるのかと言われたらわからないのだ。

使えるポイントは20。

あげる必要性のあるステータスは敏捷と・・・運。

とりあえず、敏捷に15、運に5を振ってみる。たぶん、普通は敏捷は5とか4だろうけど俺はこれで良いのだ。正直現実の体質がゲームでも適用されて、いつものように不幸が崇つて矢とかがどこからともなく飛んできて避けられない方がつらいから

『キャラクター名 アキ

性別 男

職業 スカウト

でよろしいですね？』

「ああ、これでいい」

それから、最初の町のことや最初にやることクエストの受け方などチュートリアルを聞かされる。

『・・・以上でチュートリアルは終了です。リアルより、リアルな世界をお楽しみください。あなたに本当の世界が訪れることを』

そついい、フィードアウトしてゆく声を聞きながら、視界が白に浸食されていく様を眺める。

完全に白に染まった瞬間、俺は石畳の上に立っていた。

「これが、VRゲームの世界なのか・・・」

まさにリアル。頬に当たる風は本物そのもので、辺りを騒がす喧噪はそこら辺の街のようで、歩く人たちの騎士や魔法使いの格好を見なければ海外の雰囲気の良い町並みに見えただろう。

冒険心をくすぐる風景だ。

自身の格好を確認してみるとだばのズボンと何の特徴のない服、腰には一本の大きいナイフとまさにLv1といった格好だ。

いつまでもここにいては始まらないと動こうとした瞬間それは起きた。

いや、正確に言うと足を上げた瞬間だが

耳に大音量で何かが割れる音が響いたのである。まるで壁一面に張られたガラスを一気に叩き割るような音。

この時こそが、事件の始まり。これに関係した人、全ての不幸の始まりである。

『皆様は今このリアルワールドの住人になりました。ここは私たちの幸せを体現する桃源郷となったのです』

ついさっきまで聞いていた女性の声が響く中、皆が呆然とし聞き入る。

不幸と共に仮初めの幸福を届けに来た声に・・・

## 始まりの不幸（後書き）

例えばの話ですが

主人公の不幸体質をわかりやすく言つと

某小説の主人公の説教好き青年の不幸体質から美少女遭遇確率を全  
て引いたような物です。

これでわかるでしょうか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8008z/>

---

バーチャルエスケープ

2011年12月25日18時50分発行